

めざす子ども像
○夢いっぱいの子
○笑顔いっぱいの子
○元気いっぱいの子

学校だより



H 3 1 . 4 . 1 1
3 1 年 度 1 号
第 三 小 学 校
文 責 : 出 田

温かな春風とともに、平成31年度が始まりました。10日(水)に1年生48名が入学し、第三小学校277名が全員そろいました。お子様の入学・進級を心からお喜び申し上げますとともに、本校児童として責任をもってお預かりいたします。

本年度は、教職員・学習支援員・学校司書・スクールカウンセラー・ALT等計37名で指導・支援してまいります。学校と家庭が、子どもたちの成長に向けて、同じ方向を向いて協力できるよう進めていきたいと思ひます。

この「学校だより」を通して、学校での教育活動や子どもたちの様子等をお知らせすることで、学校・家庭・地域の絆がさらに深まり、子どもたちの成長へつながっていかばと考えております。本年度もよろしくお願いいたしします。

平成31年度職員紹介

校長	出田 浩芳
教頭	早崎 史洋
教務主任	安藤 恒治朗
1年1組	小野 宮子 (二小から)
1年2組	橋本 恭子
2年1組	林 鈴奈 (新規採用)
2年2組	岐千 恵子
3年1組	平山 敬介
3年2組	園田 陽子
4年1組	横田 砂織
4年2組	吉田 あやか (新規採用)
5年1組	新田 晃弘 (県教育センターから)
6年1組	伊藤 ゆり
6年2組	田島 一久
愛護	近藤 小百合
なよ	大島 さつき
おひ	永石 富子 (二小から)
通級指導	稲田 和喜 (五小から)
通級指導	本村 さつき
専任教科指導	山下 恭子 (二小から)
専任教科指導	吉田 光利
初任者指導	宮崎 邦彦
養護教諭	中村 むつみ
養護教諭	石田 悦子
学習支援員	坂本 千恵子
学習支援員	山本 侑加
学校司書	永石 敏文
事務主幹	石本 秀次 (一小から)
事務補助	前森 聖子
スクールカウンセラー	濱本 彩
ALT	ラブレック・ステファニー
給食調理場職員	吉田 留美子 (五小から)
給食調理場職員	福田 恵子
給食調理場職員	中村 純子
給食調理場職員	梅田 里佳
給食調理場職員	吉中 重子 (二小から)
	坂下 佳織 (育休職員)
	吉田 修 (校務主事休職職員)

*本年度もよろしくお願いします。

始業式「平成から令和へ」

4月8日(月)朝の登校では、久しぶりに子どもたちの元気な姿と笑顔が見られました。「担任の先生は誰かな?」「新しい先生はどんな先生かな?」と期待と不安が入りまじった子どもたちの気持ちも伝わってきました。

始業式で話したとについて紹介します。

①1つ目は、手話による「令和」についてこの手話は、どんな意味でしょうか?

→5月から変わる、新しい元号「令和」

①「5本の指先をゆっくりと開く」動作

(春になって蕾が開いて花が咲く様子を表す。)

②「その手を前に押し出す」動作

(未来へ進んでいくという意味が込められる。)

つまり、新しい「令和」の時代、「平和で和やかな、気持ちの明るい日本をみんなでつくっていこう」という気持ちが込められています。

4月、新しく学年が一つ上がった皆さんは、新たな気持ちで何事も取り組んでほしいこと。特に、最高学年である6年生には、学校のリーダーとして期待していること、他の学年の子どもたちには、新しい学年となり、一人一人が自分の目標に向かって頑張っていること等伝えました。(後は省略)

安心できる家庭が一番

県警察本部生活安全部少年課の「サポート通信」(4/1)について紹介します。(一部抜粋)

中学2年生から関わってきた女子が来年成人します。彼女は中学校時に不登校になりました。親子の言い合いは絶えず、この頃の彼女は、「私の家は、『ただいま』『おかえり』の挨拶をすることもない。大嫌いだ。」と話していました。そんな彼女の声に耳を傾け、励ましながら登校支援等立ち直り支援活動を実施しました。

定時制高校に進学後、彼女は「変わりたい」という気持ちが芽生え始め、登校できるようになるとともに、顔から笑みがあふれ、学校での様子を嬉しそうに話すようになりました。最近久しぶりに彼女に連絡を取ったところ、「自分も家の手伝いや登校をまじめにしており、家の中がうまくいっている。」と、元気な声が返ってきました。父親のことを「大嫌い」「早く家を出たい」と話していましたが、実際には父親のことが大好きで甘えたい気持ちが見え隠れし、父親が仕事を頑張る姿に喜んでいく気持ちが伝わってきました。

私たちを含めたくさんの関係者が寄り添い支援を続けてきましたが、子どもが一番の力になり、背中を押したのは、本当は大好きな父親が見せる安定した姿と安心できる家庭なのだと、長年関わってきた彼女との話から改めて感じました。

□4月、子どもたちは、環境が変わり、新しい出会い(先生や友だち)がある中、心が揺れ動いています。今、子どもたちにとって、何でも話せ聞いてもらえる時間が必要です。大変ご多用の中とは存じますが、ご家庭と一緒に話したり、遊んだり、手伝いをさせたりするなど「子どもとの時間」をつくってください。